

日立市立大久保小学校 埜口 睦
岩間 友希

- 1 派遣期日 令和5年8月8日(火)
- 2 派遣先 学校名 筑波大学附属小学校
所在地 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

<https://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp/>

3 研修内容

第24回 全国国語授業研究大会

大会テーマ 子どもと創る言葉の学び

－「個別最適な学び」と「協働的な学び」が充実する国語授業－

①授業Ⅰ 3年生文学 桂 聖先生 「きまったぜ かまきりりゅうじ」くどう なおこ (授業の流れ)

- ・子供たちそれぞれのおすすめの詩を簡単に紹介し合う。
- ・桂先生のおすすめの詩、ということで「きまったぜ かまきりりゅうじ」を紹介。
- ・題名や詩の一部を隠したのを見せ、どんな言葉が入りそうか予想させたり、語尾やオノマトペなどの表現技法を確認したりする。
- ・動作化しながら詩を音読する。
- ・詩の途中に新しい連を入れてみよう、と投げかけ、ノートに書かせる。
- ・桂先生の書いたバッドモデルや、ChatGPTが書いたものを読み、改善案を出させる。
- ・子供が書いたものを発表させ、みんなで音読する。



詩の新しい連をつくるときに、元の詩と同じ表現技法を使うことや、作品の設定(時・場所など)を揃えることを意識すると良いことを、マインドマップのような板書の仕方で分かりやすく示していた。

②協議会

- ・子供の作品を発表させてから、モデル文を提示した方が良かった。
- ・「マイ詩集をつくろう」という単元のゴールが明確に示されているため、子供たちは意欲的に詩の表現技法を学習したり、新しい連づくりに取り組んだりすることができていた。
- ・動作化しながら音読するときに、「カマを振ったら他にどんなことができそう？」と投げかけ、そこから詩の新しい連づくりにつなげて良かった。また、動作化をさせる場合は、かまきり役以外の子どもは良いところを見付けさせると良かった。
- ・バッドモデルやChatGPTが書いた詩を読む活動を入れたことで、詩の語尾や音数をより意識でき、自分で詩の一部をつくる活動に生かすことができていた。

③特別講演 今井 むつみ先生 「言葉の意味が分かることとは」

- ・言葉の意味が分かること(知っている)と、文章にすることができる(使える)は違う。その言葉がどの場面でいつ使えるかを理解するためには、他の言葉との違いが分

かっている必要がある。

- ・言葉を習得するためには、仮説を立てる→実際に試してみる→確かめる→修正するという流れを繰り返すことが大切。
- ・ChatGPTに依存させると、言葉の意味をよく考えなくなるから直感が育たなくなってしまう。文章の良し悪しが分からないうちから、ChatGPTに依存させることはよくない。より良い使い方を、一緒に考えていくと良い。

④授業Ⅱ 2年生説明文 青山 由紀先生 「どうぶつ園のじゅうい」 植田 美弥
〈授業の流れ〉

- ・夏休み中に見つけた身近な仕事名人について、生活科の町探検と関連付けて発表する。
- ・「どうぶつ園のじゅうい」の仕事を復習。仕事内容の写真を、順序を変えて黒板に貼ることで、「順番が違う！」という声を引き出す。いつ（時）、どこ（場所）でこの仕事をしているか、本文を根拠にしながら発表するように促していた。



時計（算数の教具）を掲示することで、より時系列をイメージできるようにしていた。時間的な順序を考えることは、低学年の説明文の指導事項であるため、この手立てを講じたこと、協議会で説明していた。

- ・どうぶつ園のじゅういの仕事を説明した、別な日の映像を見せ、本文との比較をする。筆者の上田さんは、なぜ本文の日を説明文にしたのかを考える。

⑤協議会

- ・板書で本文と映像の時系列を表すことが難しかった。今回のように放射状にするか、表にするか悩んだ点であった。
- ・叙述に書いてあることだけでなく、はっきり書かれていないことを、推論しながら考えることを、低学年のうちから訓練することを意識している。
- ・子供の問いをどう引き出すか。単元始めに、題名読みをしたり、今までの説明文や生活との関連付けをしたりすることで、単元との出会わせ方を意識している。
- ・間違いがあったとしても、一人一人に考えを持たせることが、個別最適な学びと協働的な学びに繋がる。

⑥ワークショップ（5年生 物語文）

- ・単元のゴールを第1次で子どもと共有する。そのゴールに向かうために、どんな学習をすればいいかを常に意識させることが大切。
- ・個別最適な学びのためには、メタ認知させることや、自分で活動を選択することが有効な手立てである。
- ・8割一斉授業、2割個別の活動、としないと、自分一人では動き出せない子がいる。
- ・子どもに活動をさせっぱなしにするのではなく、教師の見取り、評価を必ず入れる。

4 感想

2本の授業を公開していただき、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が充実させる手立てが勉強になった。特に、子どもの考えをつなげるための問い返しや、どの授業も単元のゴールが明確に示されていたことが参考になった。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を行き来しながら、学習が深まっていく様子が、実際の授業を見たことでイメージできた。

最後になりましたが、このような機会を与えていただき、ありがとうございました。